

中岡義介先生を囲む会

2010年12月7日

田中 学（1994年卒）

2010年5月1日、県庁15階で「中岡義介先生を囲む会」を開催しました。

卒業生にとどまらず、各方面で活躍されている多くの方に参加・賛同をいただき、中岡先生が佐賀大学に在籍された1990年から1998年の幅広い活躍の軌跡をあらためて認識したところです。

【開会】

清田勝先生に開会の挨拶をいただき、その後、中岡先生から「嘉瀬川ダムからバリ島へ、バリ島から嘉瀬川地域へーある地域再生の軌跡ー」という題目で、先生が佐賀大学に来られる以前の話から嘉瀬川ダム周辺整備計画のこと、さらにはバリとの出会いを通じて考えられておられることなどのご講話をいただきました。

乾杯のあと、参加いただいた多くの方々から、先生との思い出やご自身の近況などを報告いただくとともに、先生とご夫人を囲んで参加者同士が親交を深めながら、充実した時間を過ごすことができました。

1次会は、2時間程度で終了しましたが、その後が長かったように記憶しております。

2次会では、卒業生を中心に、卒業研究時のエピソードをはじめ、15年以上も前の出来事を昨日のことのように語り合えたことは大変感慨深いものでした。

その後、3次会、4次会へと佐賀の夜を満喫したかと思いますが、あまり記憶が定かではありません。

【佐賀大学のこと】

佐賀大学理工学部「都市工学科」は、1970年に設立された「土木工学科」に端を発していますが、地域に密着した研究・教育の拠点として、行政、企業、技術者との連携を強め、地域への貢献を果たしている学部・学科であると認識しております。

振り返れば、多分野の人々で構成されるまちづくり研究会「本庄ロンド」にはじまり、佐賀での中岡先生の活動はまさに地域に密着したものでした。

佐賀大学に入學し、中岡先生をはじめ多くの人々との出会いがあつて、現在のわたしたちがあると感じております。

先生には建築学、都市計画学、環境デザイン学を中心に、「学ぶ」こと、「知る」ことの楽しさを教わりました。と同時に「わたしたちの仕事は将来をつくる仕事」という言葉も頂きました。

【これからのことーほどほどに？ー】

先生からのご講話の中に、「バリとの出会いーほどほどに働くということ」についての話

がありました。「ほどほどに」とはおっしゃっておられましたが、先生は、佐賀大学を出られてからも、将来をつくるための幅広い活動をされています。先生の師でもあられる上田篤先生を中心に活動されている「地文学研究」もその一つです。研究成果の一部として 12 名の異分野の研究者によって『日本人はどのように国土をつくったか－地文学事始－』(学芸出版社 : 2005)が出版されていますが、先生も地文学研究員として環境デザイン学の視点から様々な切り口で執筆されています。

「地文学」とは、土地の文（あや）つまり土地の特徴的な構造を読み、土地を解釈する学問と定義されています。日本の国土は偶然に発生したものではなく、平野、盆地、山地、海、川などの地形条件と調和した庶民による国づくりが行われた結果形成されたものであり、こうした国づくりの発祥を様々な視点で紐解いていくことは、今後の地域づくりを考える上でも大変参考になると思います。

【とりあえず中締め】

さて、「中岡義介先生を囲む会」第1回目は盛会として開催することができました。次回以降は形式にはとらわれず、先生を囲んで皆さんの近況報告会でもやりましょう！

末筆となりましたが、ご多忙の中、準備・運営に奔走いただいた後藤隆太郎先生、清田勝先生、三島信雄先生をはじめ、参加・賛同をいただいた皆さんに、心より感謝の意を表します。